

1 研究主題

目と輝かせ、生き生きと学び合う児童の育成 ～主体的・協働的に学ぶ対話型授業を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の教育課題から

次期学習指導要領改訂の方向性について、すでに論点整理が示されている。その背景として、「子どもたちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現する。」ことがねらいとされている。そのために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けることが求められている。

○学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 「主体的な学び」

○子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。 「対話的な学び」

○習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。 「深い学び」

【中央教育審議会資料より】

特に、「対話的な学び」については、身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められている。

(2) 本校の教育目標から

本校の教育目標は「健やかで、確かな学力と豊かな心を身につけ、未来を力強く切り拓く子どもの育成」である。その中の「確かな学力」を受けて、本校のめざす児童像に「進んで学習する子」が掲げられている。そこで、テーマ研究を通して、学習の活性化を図るために、対話型授業を意識した授業基盤を構築していくとともに、主体的・協働的に取り組む児童の育成を図ることが、これからの社会の変化に対応し、自らの人生を豊かにする自己教育力の基盤を育むことにつながっていくと考える。

(3) 本校の実態から

本校の平成28年度の標準学力検査（NRT）の結果を見ると、全国標準である50に対して、総合偏差値は53.7である。また、学年差や教科差もあまり見られず、好ましい傾向といえる。しかし、昨年度の児童の意識調査によると、「自分から進んで調べたり、作ったり、発表したりしています」「自分の意見やアイデアを友達に納得してもらえるように説明しています」の項目が特に低いことが明らかになった。授業における話し合いの場においても、「自分の考えが言えずに、深まりがなく、学び合いになっていない」など主体的・協働的に学ぶことができていないことが課題として挙がっている。

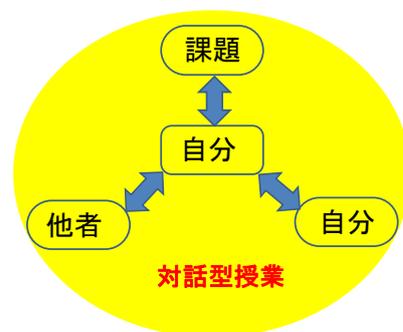
3 研究主題についての基本的な考え方

「主体的」な学びとは、

児童一人一人が課題を持ち、よりよい考えや表現を求めて学習活動に取り組み、学びのよさを実感し、次の学びへの意欲を持つことである。

「協働的」な学びとは、

グループ内で友達と協力して学んだり、グループを越えて課題解決の検証を行ったりしていく。互いの考えを伝え合うことで、自分と違う考えに出会い、再構築し、振り返ることで、自分や集団の考えを深めたり、発展させたりしていく学びととらえる。



「対話型授業」とは、

課題や教材、他者（友達や教師）、さらには自分自身との対話を通じて、課題を解決する授業であるととらえる。

4 研究の構想

(1) 研究の組織

| | | | | | | | |
|----|----|-----|-----|---------|-------|-------|-------|
| 校長 | 教頭 | 全体会 | 専門部 | | 低学年部 | 中学年部 | 高学年部 |
| | | | | 授業研究部 | 藤本 | 永田 | 成松 |
| | | | | 対話力アップ部 | 櫻原・武田 | 溜淵・田中 | 福岡 |
| | | | | 調査検証部 | 本田 | 坂本 | 開田・桑原 |

【取り組む内容】

| | |
|---------|--|
| 授業研究部 | 対話型授業の提案、授業づくり、授業研究会の運営 |
| 対話力アップ部 | 基礎学力タイム（漢字・計算、対話力スキルアップ、本の紹介・ビブリオバトル）の計画・準備、 |
| 調査検証部 | 児童・職員の意識（アンケート作成・集計・分析）調査 |

(2) 研究の中心と仮説

| 研究の中心 | 研究の仮説 |
|--------------------------|---|
| ① 対話を意識した学習展開の工夫 | 一連の学習過程において、対話を意識した学習活動を展開すれば、主体的・協働的に学ぶ児童が育つであろう。 |
| ② 児童の対話力の向上 | 対話力を育てるスキルアップの場を設けることで、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりすることが好きになり、ともに学び合う児童が育つであろう。 |
| ③ 対話力を育てるための発問・指示を意識した授業 | 対話力を育てるために教師が効果的な発問や言葉かけを講じれば、共に考えを深めたり、発展的に考えたりする力が高まるであろう。 |

(3) 研究の構想図

目を輝かせ、生き生きと学び合う児童の育成
～主体的・協働的に学ぶ対話型授業を通して～

【めざす子ども像】

課題解決に向けて、真
剣に取り組む児童

友達と考えを交流し合いなが
ら、考えを深める児童

学習したことを、自分なりに
再構築してまとめる児童



仮説 1

【対話を意識した学習展開の工夫】
それぞれの学習過程において、対話を意識した学習活動を展開すれば、主体的・協働的に学ぶ児童が育つであろう。

対話型授業

仮説 2

【児童の対話力の向上】
対話力を育てるスキルアップの場を設けることで、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりすることが好きになり、生き生きと学び合う児童が育つであろう。

仮説 3

【対話力を育てるための発問・指示を明確にした授業】
対話力を育てるために教師のかかわりを明確にし、効果的な発問や工夫を講じれば、共に考えを深めたり、発展的に考えたりする力が高まるであろう。

児童の実態

(4) 研究の進め方

【仮説 1】 それぞれの学習過程において、対話を意識した学習活動を展開すれば、主体的・協働的に学ぶ児童が育つであろう。

ア 課題や教材との対話（課題をとらえる）

課題や教材としっかりと向き合い、事実を正確に理解し、自分の知識や経験と結び付けて解釈することにより、題意をとらえるようにする。

・教材からわかることは何か。問いかけているのは何か。どうしてだろうか。

イ 自分との対話 I（自分の考えを持つ）

課題について、既習事項を活用しながら、自分の考えをもつことができるようにする。更に、その

自分の考えについて、理由や立場を明確にさせ、ノートなどにまとめるようにする。

- ・何が活用できるかな。・どのように考えを書いているか。

ウ 友達との対話（考えを交流し学び合う）

互いの考えを表現し合い、自分の考えと比較、分類、関連付けなど行うことにより、多様な観点からその妥当性や信頼性を吟味するようにする。

- ・自分の考えと友達の考えの同じところ、違うところは何か。・友達の考えのよいところは何か。

エ 自分との対話Ⅱ（自分の考えを深める）

対話したことを基に、自分自身で再考することにより、自分の考えをより深める。

- ・自分の考えを見直そう。付け加えたり、修正したりしてもっとよくしよう。

| 導入 | 展開 | | まとめ |
|-----------|---------|-----------|----------|
| 課題発見・見通し | 自力解決 | 協働解決・一斉検証 | まとめ・振り返り |
| 課題や教材との対話 | 自分との対話Ⅰ | 友達と対話 | 自分との対話Ⅱ |

【仮説２】 対話力を育てるスキルアップの場を設けることで、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりすることが好きになり、ともに学び合う児童が育つであろう。

子どもたち同士が、対話的な学びによって思考を深めていくためには、対話の中に次のような言葉を表出させたいと考える。

| 学年 | 児童の思考力 | 児童に表出させたい言葉 |
|-----|-------------------|---|
| 低学年 | 順序を育てる力 | ・はじめに、次に、おわりに |
| | 比較する力 | ・AとBを比べると ・どちらかというと ・付け加えると ・～の方が分かりやすい。簡単。 |
| 中学年 | 関係付ける力 (原因や理由) | ・なぜかという、・その理由は ・～のためである。 ・例えば、・事例を挙げると、 ・～などがあたる。 |
| | 分類・整理する力 | ・同じところは、・似ているところは、 ・違うところは、 ・特に、・つまり、 ・このようにして、・要するに・まとめると |
| 高学年 | 推理・推論する力 | ・たぶん、・おそらく ・もし、～だとすると・もし、～がなければ ・～ので(だから)、～だろう |

ア 基礎学力タイム

(ア) 対話力スキルアップ

- ・問答ゲーム ・質問ゲーム・伝言ゲームなど

(イ) ビブリオバトル（書評合戦）

【仮説3】 対話力を育てるために、効果的な発問や言葉かけを講じれば、共に考えを深めたり、発展的に考えたりする力が高まるであろう。

児童が問題解決に取り組む過程で、教材と対話し、さらには自分の考えを友達の考えとの対話を通して、考えを深めていくことはとても大切なことである。そのような授業を展開するには、対話する力を育てるための教師の発問・言葉かけが重要な役割を示しているように思われる。つまり、教師が子どもたちの対話する力を伸ばすために、何を意図した発問であるかを明確にし、効果的な手立てや支援を講じることが対話型授業を行うための第一歩であるように考える。その積み重ねが、対話力を育て、問いを解決するための話し合いを進めていく上で、自分の考えを見直したり、考えを深めたり、発展的に考えたりできる子どもを育てるのではないかと考える。

【対話力を育てる教師の支援】

| 型 | 教師の立ち位置 | 使う場面 |
|-------|------------------------|---|
| 引き出し型 | 自分を低い位置に置く | 子どもの話し方が分かりづらいので、もっと分かりやすく話させたいとき |
| | わざと間違える | 理解を徹底したいとき |
| | 「プラス評価＋疑問」でつつこむ | 子どもの素晴らしい考えに、さらにその内容を深めたいと思うとき |
| | 意見を持たせる 二者択一 | 自分の意見を持たせたい、発言させたいとき 子どもの発言がなく、授業が停滞しているとき |
| | 何を言ってもよい発問から始める | 発表への抵抗を持つ子どもが多いとき |
| | 友達の考え方を理解させる | 自分では考えていない方法を、友達が出したとき |
| | 最大級の賞賛 | 素晴らしい考えを出したり、誰も考えつかないことを発表したりしたとき |
| 束ね型 | 子どもの考えた名前でネーミング | 考え方がたくさん出され、区別し整理したいとき |
| | 「つまり」「一言で言うと」でキーワード化する | 子どもの発言が長いとき、またそのための要領が得ていないとき |
| | 課題を連続させる | 課題意識を持続させたり、思考活動を深めさせたりしたいとき |
| | 用語を使う | 既習事項の用語を使わず、説明が簡潔ではないとき |
| | 例示して納得させる | 抽象的な説明では伝わらないとき、具体例を出しながら理解させたいとき |
| 寄り添い型 | 友達に助け船を求める | 途中まで発言したけど、説明が上手くできなくなったとき |
| | 話し合いの交通整理をする | 話し合いが混乱したとき |
| | 共に悩んでみる | 話し合い活動で、解決の糸口が見えず、活動が停滞しているとき |

